

だいじょうぶ
つながる
こそだて

だっこ通信

第68号 2026. 3月発行



主体性どう育てる？

子どもの主体性って、どうやって育てていけばいいのでしょうか。小さい頃はできないことがいろいろありますが、成長するにつれて自分でやれることが増えてきます。子どもが少しずつ自立していく姿は親にとっても嬉しいもの。子どもが自分で考えたり工夫したりしながら行動できるようになるには、**小さい時から「自分で決める」という経験をちょこちょこ積ませていくことが大切です。**意欲が高まり、自信もついてきます。

今日は何を着る？



ママが決めてよ～



わかんない。
何でもいいや。



今日はこの服に
するよ。



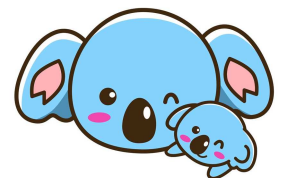
「着る服を決める」のように、小さなことから自分で決めていく習慣が**主体性**につながっていきます



オンフーのつぶやき



子どもの考えを聞く前に、親が先回りして決めてしまうことってあるよね。何でも「親が決めてくれる」と思っていると、子どもは自分で選んだり決めたりしなくなる。「自分で決めていいよ」と言われても、「わかんない」「どっちでもいい」「ママが決めて」のような言葉を返すようになる。誰かに決めてもらうのを待っているのは受け身的だし、指示待ちになってしまうよね。**小さい時から子どもが自分で考えて決めていく経験をたくさん積ませることが大事なんだと思う。初めからうまくいなくていいんだ。**失敗やうまくいかないことを重ねながら、少しずつできるようになっていく。失敗は成長の糧！温かく見守っていきたいね。



自分で決められるようになると自信がついてくるよ。たとえ失敗しても次に向けて改善したり工夫したりできるようになるんだ。

発行者：さくら市生涯学習課（担当 s.suzuki）